

## 海外からの研修生が「砂防」の現場を視察 ～「SABO」は世界の共通語～

令和8年5月19日(火)、JICA課題別研修の一環として、水災害対策に携わる行政関係者(研修生)が、管内の視察に訪れました。

- 研修プログラム名 「洪水防災」
- 研修機関 土木研究所(水災害・リスクマネジメント国際センター)
- 研修生 9カ国, 16名
  - ・バングラデシュ、ブータン、インドネシア、ケニア、ベトナム
  - ・マダガスカル、マラウイ、スリランカ、東ティモール
  - ・修士課程研修員13名、博士課程アシスタント3名

午前中は、「平成16年新潟県中越地震」により甚大な被害が発生した芋川流域を巡り、震災直後の緊急対応や、その後に整備された砂防施設の役割などを説明しました。



やまごし復興交流館「おたる」



神沢川砂防堰堤(鋼製セル式)



質問タイム(施設配置計画など)

午後は、事務所の歴史や取り組みを紹介。その後、「大源太川第1号砂防堰堤」を視察し、仮排水トンネルでは、雄大な景色と水しぶきのマイナスイオンに歓声が上がりました。



事業概要説明



大源太川第1号砂防堰堤



仮排水トンネル

研修生からは、「施設の規模や配置はどう決めているのか?」、「TEC-FORCEは平時から組織されているのか?」などの質問のほか、「SABOの勉強はしているが、施設を見るのは初めてで貴重な体験ができた。」といった感想もいただきました。

～ 湯沢砂防事務所では、今後も管内での研修等を支援して参ります。～